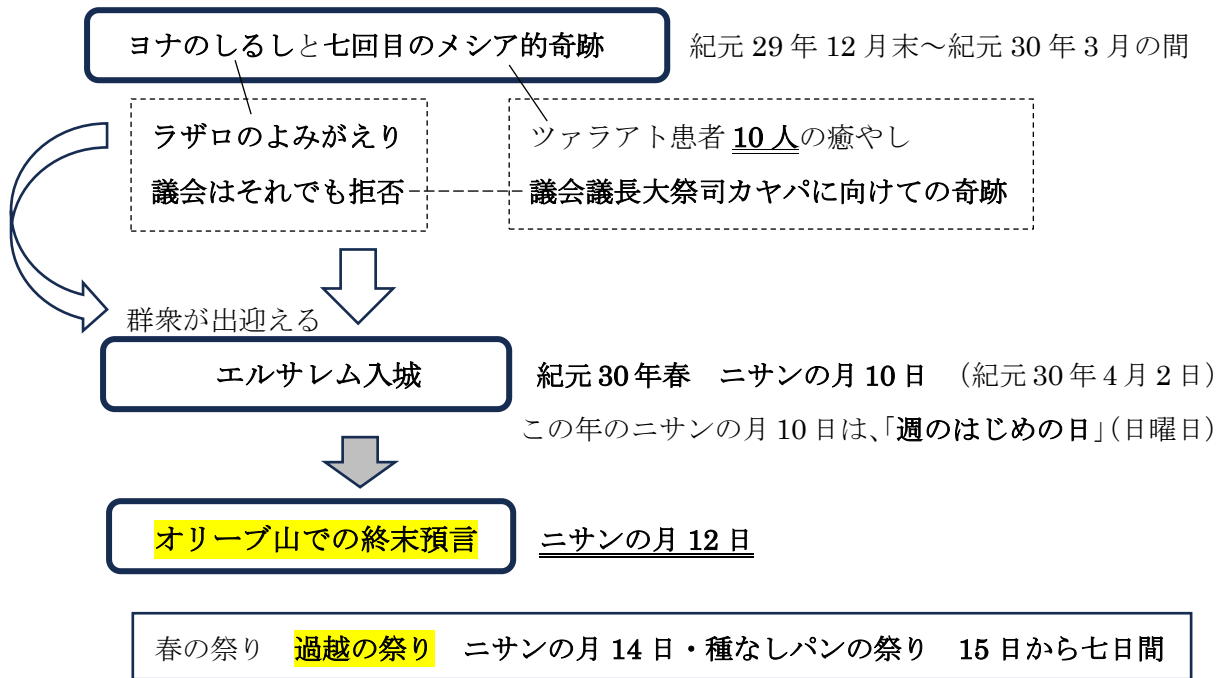


オリーブ山での終末預言②

□前回までのハイライトからのつながり



□アウトライン

- A) 三つの質問
 - B) 再臨までの時代の特徴
 - C) 世の終わりのしるし
 - D) エルサレム陥落のしるし
 - E) 大患難期 前半
 - F) 大患難期 後半
 - G) 再臨
 - H) イスラエルが約束の地に集められる
 - I) いちじくの木のとえ話 (大患難期後半に入るときイスラエルに向けた励まし)
 - J) 携挙
 - K) 大患難期の諸国民に向けた 5 つのとえ話
 - L) 諸国民のさばき
- ①
- ②

J) 携挙

マタイ 24:36～42 ただし (ペリデ＝ところで)、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。人の子の到来はノアの日と同じように実現するのです。洪水前の日々にはノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていました。洪水が来て、すべての人をさらってしまうまで、彼らには分かりませんでした。人の子の到来もそのように実現するのです。そのとき、男が二人畑にいると一人は取られ、一人は残されます。女が二人臼をひいていると一人は取られ、一人は残されます。ですから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主が来られるのがいつの日なのか、あなたがたは知らないのですから。

- ただし・・・ギリシア語の「ペリデ」、話題転換の意味で、「ところで」と訳せる。
- 人の子の到来・・・メシアの再臨。再臨は 2 段階、この箇所では第一段階の再臨について預言されている。
 - 第一段階：メシアが教会の信者たちを迎えに来る（空中再臨、教会の携挙）
 - 第二段階：メシアがイスラエル民族の祈り願いを受けて地上に帰る（地上再臨）。その場所は、ボツラ（現代の地名は、南ヨルダンのペトラ）
- ノアの日・・・ノアが箱舟に入った日。大洪水による人類に対する神のさばきが始まった日（創世記 7 章）

ルカ 21:34～36 あなたがたの心が、放蕩や深酒や生活の思い煩いで押しつぶされていて、その日が畏のように、突然あなたがたに臨むことにならないように、よく気をつけなさい。その日は、全地の表に住むすべての人に突然臨むのです。しかし、あなたがたは、必ず起こるこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈っていなさい。

- その日は、全地の表に住むすべての人に突然臨む・・・その日とは、大患難期。
- あなたがたは、必ず起こるこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つ・・・メシアを信じる者たちは、大患難期にあうことなく、メシアの前に立つ。よって、携挙は、大患難期の前に起こる。メシアは、大患難期が始まる前に、教会の信者たちを迎えに来てくださる。

K) 大患難期の諸国民に向けた 5 つのたとえ話

ここでイエスが語りかけている「あなたがた」は、大患難期の諸国民である。

大患難期前半では世界宣教が行われ、すべての国の人々が福音を聞く。このたとえ話 5 つも、イエスが「すべての人に言っているのです」(マルコ 13:37) と語っているように、大患難期の信者だけでなく、大患難期のすべての人に語りかけている。

そして、このたとえ話 5 つの中には、真の信者と偽の信者との対比もある。大患難期で最後に偽の信者や不信者が残るのは、イスラエル民族を除く諸国民である。イスラエル民族は、大患難期の末期に民族的救いを受けて全員が信者となるからである。

よって、5 つのたとえ話の対象は、大患難期の諸国民である。

第一 門番のたとえ話

マルコ 13:33~37 気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたは知らないからです。それはちょうど、旅に出る人のようです。家を離れるとき、しもべたちそれぞれに、仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているように命じます。ですから、目を覚ましていなさい。家の主人がいつ帰って来るのか、夕方なのか、夜中なのか、鶏の鳴くころなのか、明け方なのか、分からないからです。主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見ることのないようにしなさい。わたしがあなたがたに言っていることは、すべての人に言っているのです。目を覚ましていなさい。」

第二 家の主人のたとえ話

マタイ 24:43~44 次のことは知っておきなさい。泥棒が夜の何時に来るかを知っていたら、家の主人は目を覚ましているでしょうし、自分の家に穴を開けられることはないでしょう。ですから、あなたがたも用心していなさい。人の子は思いがけない時に来るのです。

第三 忠実なしもべと悪いしもべのたとえ話

マタイ 24:45~51 ですから、主人によってその家のしもべたちの上に任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべとはいったいどれでしょう。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せるようになります。しかし彼が悪いしもべで、『主人の帰りは遅くなる』と心の中で思い、仲間のしもべたちをたたき始め、酒飲みたちと食べたり飲んだりしているなら、そのしもべの主人は、予期していない日、思いがけな

い時に帰って来て、彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ報いを与えます。しもべはそこで泣いて歯ざしりするのです。

- 偽善者たちと同じ報いを与える・・・偽善者とは、初臨のメシアを拒否した、あの世代のパリサイ人や律法学者たち。その人たちは神の国に入れないとイエスは当時、語った。その人たちと同じ報いを与えるとは、メシアの王国に入ることを許さず、永遠の滅びの場所に行かせる、ということ。
- そこで・・・泣いて歯ざしりする場所は、永遠の滅びの場所＝火の池

第四 十人の娘たちのたとえ話

マタイ 25:1～13 そこで、天の御国は、それぞれともしびを持って花婿を迎えに出る、十人の娘にたとえることができます。そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を持って来ていなかった。賢い娘たちは自分のともしびと一緒に、入れ物に油を入れて持っていた。花婿が来るのが遅くなったので、娘たちはみな眠くなり寝入ってしまった。

ところが夜中になって、『さあ、花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声がした。そこで娘たちはみな起きて、自分のともしびを整えた。愚かな娘たちは賢い娘たちに言った。『私たちのともしびが消えそうなので、あなたがたの油を分けてください。』しかし、賢い娘たちは答えた。『いいえ、分けてあげるにはとても足りません。それより、店に行って自分の分を買ってください。』

そこで娘たちが買いに行くと、その間に花婿が来た。用意ができていた娘たちは彼と一緒に婚礼の祝宴に入り、戸が閉じられた。

その後で残りの娘たちも来て、『ご主人様、ご主人様、開けてください』と言った。しかし、主人は答えた。『まことに、あなたがたに言います。私はあなたがたを知りません。』
ですから、目を覚ましていなさい。その日、その時をあなたがたは知らないのですから。

- 五人は愚かで、五人は賢かった・・・愚かとは信仰をもっていないこと、賢いとは信仰を持っていること
- ともしびは持っていたが、油を持って来ていなかった・・・ともしびは神のことば。大患難期には全世界に福音宣教され、すべての人が神のことばを聞く。信じるなら、その人は油、すなわち神の霊、聖霊の内住を受ける。愚かな五人は、福音を聞いていたが信じなかったため、油は持っていなかった。
- 婚礼の祝宴・・・花婿はメシア、花嫁は教会の信者たち。

第五 タラントのたとえ話

マタイ 25 : 14~18 天の御国は、旅に出るにあたり、自分のしもべたちを呼んで財産を預ける人のようです。彼はそれぞれその能力に応じて、一人には五タラント、一人には二タラント、もう一人には一タラントを渡して旅に出かけた。するとすぐに、五タラント預かった者は出て行って、それで商売をし、ほかに五タラントをもうけた。同じように、二タラント預かった者もほかに二タラントをもうけた。一方、一タラント預かった者は出て行って地面に穴を掘り、主人の金を隠した。

- 五タラント・・・一タラント=6,000 デナリ=労働者の年収約 20 年分。五タラントだから、年収約 100 年分。

マタイ 25 : 19~30 さて、かなり時がたってから、しもべたちの主人が帰って来て彼らと清算をした。すると、五タラント預かった者が進み出て、もう五タラントを差し出して言った。『ご主人様。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はほかに五タラントをもうけました。』主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』二タラントの者も進み出て言った。『ご主人様。私に二タラント預けてくださいましたが、ご覧ください、ほかに二タラントをもうけました。』主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

一タラント預かっていた者も進み出て言った。『ご主人様。あなた様は蔭かなかったところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集める、厳しい方だと分かっていました。それで私は怖くなり、出て行って、あなた様の一タラントを地の中に隠しておきました。ご覧ください、これがあなた様の物です。』

しかし、主人は彼に答えた。『悪い、怠け者のしもべだ。私が蔭かなかつたところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集めると分かっていたというのか。それなら、おまえは私の金を銀行に預けておくべきだった。そうすれば、私が帰って来たとき、私の物を利息とともに返してもらえたのに。だから、そのタラントを彼から取り上げて、十タラント持っている者に与えよ。』

だれでも持っている者は与えられてもっと豊かになり、持っていない者は持っている物までも取り上げられるのだ。この役に立たないしもべは外の暗闇に追い出せ。そこで泣いて歯ざしりするのだ。』

- 外の暗闇・・・不信者が最終的に行く場所、「火の池」、「ゲヘナ」

L) 諸国民のさばき

マタイ 25 : 31～33 人の子は、その栄光を帯びてすべての御使いたちを伴って来るとき、その栄光の座に着きます。そして、すべての国の人々が御前に集められます。

人の子は、羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより分け、羊を自分の右に、やぎを左に置きます。

- すべての国の人々・・・大患難期を生き延びた諸国民。イスラエル民族は含まない。

マタイ 25 : 34～36 それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』

マタイ 25 : 37～40 すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたでしょうか。いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたでしょうか。いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』

すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

- これらのわたしの兄弟たち・・・イスラエル民族
- それも最も小さい者たち・・・イスラエル人の中でも特に力の弱い者たちや子どもたち

マタイ 25 : 41～43 それから、王は左にいる者たちにも言います。『のろわれた者ども。わたしから離れ、悪魔とその使いのために用意された永遠の火に入れ。おまえたちはわたしが空腹であったときに食べ物をくれず、渴いていたときに飲ませず、わたしが旅人であったときに宿を貸さず、裸のときに服を着せず、病気のときや牢にいたときに訪ねてくれなかった。』

- 悪魔とその使いのために用意された永遠の火・・・「永遠の火」とは、不信者が最終的に行く所。永遠に神から分離されて、苦しむ場所。「ゲヘナ」、「火の池」とも

呼ばれる。この場所は、本来、神が悪魔とその配下の悪霊たちを最終的にそこに投げ込むために準備した所。

- 不信者が死ぬと、その靈魂が行く所は、「よみ」の中の「苦しみ場所」
- メシアの王国（千年間）が終わると、「よみ」に行っていた不信者の靈魂は神により呼び出され、復活の体を与えられたうえで、神のさばきを受ける。
- さばきの結果、刑罰を受ける場所が、「永遠の火」である。「よみ」では靈魂だけであったが、「永遠の火」では体と靈魂の両方を持って、苦しみを受けることになる。
- 神のさばきでは、一人ひとりの行いに応じてさばかれるので、「永遠の火」の中での苦しみには、軽い重いの程度の差がある。

マタイ 25 : 44～45 すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であったり、渇いていたたり、旅人であったり、裸でいたり、病気をしていたり、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』すると、王は彼らに答えます。『まことに、おまえたちに言う。おまえたちがこの最も小さい者たちの一人にしなかったのは、わたしにできなかったのだ。』

マタイ 25 : 46 こうして、この者たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入るのです。」

忠実な管理人と怠惰な管理人のたとえ話

紀元 29 年仮庵の祭りの後 ルカ 12 章 使徒たちはじめ教会時代の信者たちに	紀元 30 年過越の祭り マタイ 24 章 43～ 大患難期の諸国民に
(再臨の第一段階である「教会の携挙」を待ち望むようにとの勧め) 35～38 節 腰に帯を締め、明かりをともしていなさい。<u>主人が婚礼から帰って来て戸をたたいたら、すぐに戸を開けようと、その帰りを待っている人たちのようでありなさい。</u>帰って来た主人に、目を覚ましているのを見てもらえるしもべたちは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人のほうで帯を締め、そのしもべたちを食卓に着かせ、そばに来て給仕してくれま す。主人が真夜中に帰って来ても、夜明けに帰って来ても、そのようにしているのを見てもらえるなら、そのしもべたちは幸いです。 二重下線部は、大患難期の信者たちが切迫した思いで待っているように、教会時代の信者たちもそのようでありなさいという勧め (忠実で賢い管理人) 42～45 節 主は言われた。「では、<u>主人によって、その家の召使いたちの上に任命され、食事時には彼らに決められた分を与える、忠実で賢い管理人</u>とは、いったいだれでしょうか。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せようになります。	(マタイ 24 章 43 節以降は、「教会の携挙」が終わったあとの大患難期の諸国民に宛てた預言なので、ルカ 12 : 35～38 に対応するイエスのことばは、ない) (忠実で賢い管理人) 45～47 節 ですから、<u>主人によってその家のしもべたちの上に任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべ</u>とはいったいだれでしょう。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せようになります。